

西区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
西区写真展		西区写真展実行委員会			
事業目的	事業内容	活動指標	R2	R3	R4
西区に在住・在勤・在学する者が撮影した、西区内のお気に入りの場所・心に残る風景・地元自慢の行事など大好きな西区の魅力が表現されている写真を募集・展示することにより、わがまちの特性の再発見並びに区意識の高揚を図ることを目的とする。	西区在住・在勤・在学者から募集テーマに応じた西区の魅力が表現されている写真を募集し、応募作品のすべてを西区役所玄関ホールにて展示する。一般の部と高校生以下の部の2部門に分けて賞を設け、受賞作品は西区役所の他、阪堺電気軌道1001型電車(通称:堺トラム)車内にて展示する。	応募作品数 (応募人数)	107点 (107人)	90点 (90人)	73点 (73人)
		来場者アンケートによる満足度(「大変よかった」「良かった」の割合)	91%	87%	90%
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
○ 暮らしのなかで区民が発見した様々な魅力あるシーンを写真作品として展示することで、区の魅力やPRすることができた。わがまちの特性の再発見並びに区意識の高揚が図られ、事業を実施する妥当性が高い。	○ テーマ設定など企画段階から区民が実行委員として参画しており、事業計画の検討や入賞作品の審査を行った。また事業の広報は地域住民が担った。行政は事務局としてサポートしており、区民と行政が協働で実施している事業である。	○ 区役所の玄関ホールで応募全作品を展示することで、他の用件で区役所を訪れた方にも写真展を楽しんでいただけた。また、区外も走行する電車内で西区の魅力が表現された写真を展示することで、区外の利用者にも区の魅力やPRすることができた。	○ 応募方法については、前年度に続き、電子申請システムで受付を行った。電子申請システムでの受付が半数以上あり、応募者への通知や管理を一括で行うことができたので、効率性が上がった。		
⑤自立発展性	総合評価				
△ 予算や展示場所の確保等が難しく、区民が自立して取り組むことは困難であり、今後も行政と区民の協働実施が望ましい。	○ 全体の応募数は昨年より減少したものの、早期の開催告知や募集テーマの設定など以前からの課題に取り組むことができた。見学者アンケートの「大変良かった」「良かった」の割合は合計90%あり、作品展としての満足度は高かったとみられる。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	今回で25回目の実施となる西区写真展は、地域住民にも定着し、毎年楽しみにしておられる方も多くいる。今回は早期の開催告知を行ったが、80%ほどが秋・冬に撮られた写真であった。募集テーマの設定は見学者には概ね好評であるものの、応募者には自由な応募を求める声もあった。次年度以降、実行委員や区民の意見、アンケートを踏まえながら、周知や応募時期、応募方法の見直しを進めるとともに、より幅広い世代が参加しやすい方法を検討していきたい。				